

2006年前期「全学共通科目アンケート」

結果の概要報告

基礎教育センター・准教授
舩本 直文

はじめに

2006年度前期にFDの一環として実施された「基礎教育アンケート」調査結果の概要を報告する。このアンケート調査は、首都大学の新しい全学共通科目が実施されて2年目を迎えた時点で、今後の基礎教育の改善に生かすために、本学の全学共通科目が1年生にどのように捉えられているかを継続的に把握していくために実施された。なお、回収率は76.7%と高く、これは全学必修科目である「基礎ゼミナール」の担当教員の協力のたまものであることを報告しておきたい。この調査結果には、首都大学の全学共通科目に対する各学部・学系の1年生の意見が十分に反映されていると考えられる。結果の概要の一部は2006年10月に開催された平成18年度第1回FDセミナーにおいて既に報告した。

1. 実施の概要

実施主体：FD委員会および基礎教育部会

対象者：首都大学東京の1年生（1,705名）

実施方法：前期の「基礎ゼミナール」の授業にて配布・回収（平成18年7月4日～31日）

回収率：1,307票／1,705名=76.7%

7系列別回収結果一覧（表1参照）

調査項目の構成と尺度（別紙調査票参照）

- ・5段階尺度・マークカード方式：全15問
- ・全学共通科目の認知に関わる項目：4問
- ・全学共通科目の履修に関わる項目：3問
- ・都市教養科目群に関わる項目：5問
- ・全学共通科目の評価に関わる項目：2問
- ・満足度：1問
- ・自由記述（1. 改善してほしいと思うこと、2. 良かったと思うこと、3. その他、自由記述）

2. 結果の概要

表1は学部・学系別（以後7系列と称する）の回答状況を示している。これは調査日の基礎ゼミナールでの出席傾向を反映した結果でもあるが、経営学系及び健康福祉学部の回答率が高く、法学系及びシステムデザイン学部の回答率が低い。自由記述は回答者の約26.5%が答えた計算になる。表2は全体の評価結果の平均値である。

評価が低いと判断できる平均値3.0を下回った項目は「ガイダンス」「ホームページHP」「履修相談」「時間割」の4項目であった。評価が高いと判断できる平均値3.5を上回った項目は「シラバス」「履修申請」「情報リテラシー」の3項目であった。

表1. 7系列別回収結果一覧

所属 \ 学生数	回収数	回収率	自由記述数 (延件数)
人 社	213	76.1%	60
法 学	242	67.4%	52
経 営	252	83.7%	64
理 工	287	76.7%	54
都市環境	219	79.0%	28
システム	283	69.3%	50
健康福祉	209	82.3%	37
その他	-	-	-
無記入	-	-	1
合計	1705	76.7%	346

表3は15項目の調査項目に対する5段階評価の%分布を横棒グラフで示したものである。赤系統の色が肯定的解答、青系統の色が否定的解答の分布を示している。肯定的解答が50%を超えた項目が「シラバス」「履修申請」「情報リテラシー」の3項目であった。「HP」と「時間割」の否定的解答が50%を超えているのが目立つと言えよう。

以下、もう少し掘り下げて検討する。考察に当たって、昨年後期の調査結果と比較しながら解釈してみたい。

2-1 「全学共通科目の認知関係」

() は昨年数値

図1に示した5段階評価の%分布のうち、肯定的評価とは5、4 中間の評価とは3、否定的評価とは2、1と解答したグループの評価結果を指している。認知関係では、「ガイダンス」「履修の手引」「シラバス」「首都大学のHP」という全学共通科目への認知に関わる項目を取り上げる。

- 「ガイダンス」が授業科目を選択する上で役だったか、という設問では、43.8(45.0)%が否定的評価。
- 「履修の手引」では33.4(34.5)%が中間的評価。
- 「シラバス」は肯定的評価が55.5(55.9)%、また平均値3.49(3.49)であり、肯定的な評価を得ている。
- 「首都大学のHP」は：50.5(59.6)%が否定的評価。

これらの認知関係の項目への解答結果から、シラバスを除き、全学共通科目の内容や履修方法の理解にはあまり役立っていないようである。HPが履修に役立つかどうかに関して、昨年よりは改善の傾向が見られるが、まだ半数以上が否定的評価をしている。しかしこのことは、新入生にとってみれば、パソコンの利用が可能かどうかということにも関わっていると思われる。

2-2: 「履修関係」

履修関係では、「4月の履修相談」「時間割」「履修申請」の3項目を取り上げて、昨年比較も含めて分析してみたい。

- 「4月の履修相談」の否定的評価が46.9(44.4)%であり、あまり改善されていない。
- 「時間割」に対して50.6(69.3)%が否定的評価をしている。
- 「履修申請」では55.6(59.9)%が肯定的評価。

以上の「履修関係」の3項目では、「履修相談」が履修計画画、あまり肯定的評価を得ていないようである。特に、今年は履修相談時に相談者が多く、長蛇の列ができて長時間待たされたという結果を反映した解答結果であろう。また「時間割」に対する評価には幾分改善傾向が見られるが、しかしまだ相変わらず半数以上が満足してはおらず、否定的評価が多い。自由記述でも受講したい授業を受講できない状況にあるという意見が多く、「時間割」の改善要望が一番多い。なお、「履修申請」に対しては肯定的評価が多く、昨年同様に履修申請がスムーズに行われている様子が見えるが、ここでも、幾分評価が下がっていることにも注目しなければならない。

表2. 全体結果の平均値

全体	ガイ ダン ス	履 修 手 引	シ ラ バ ス	H P	履 修 相 談	時 間 割	履 修 申 請	基 礎 ゼ ミ	英 語 N S E	英 語 日 本	情 報 リ テ	都 市 教 養	共 通 基 礎	全 学 共 通	満 足 度
1307人	2.7	3.0	3.5	2.5	2.5	2.6	3.5	3.2	3.3	3.0	3.6	3.1	3.3	3.2	3.1

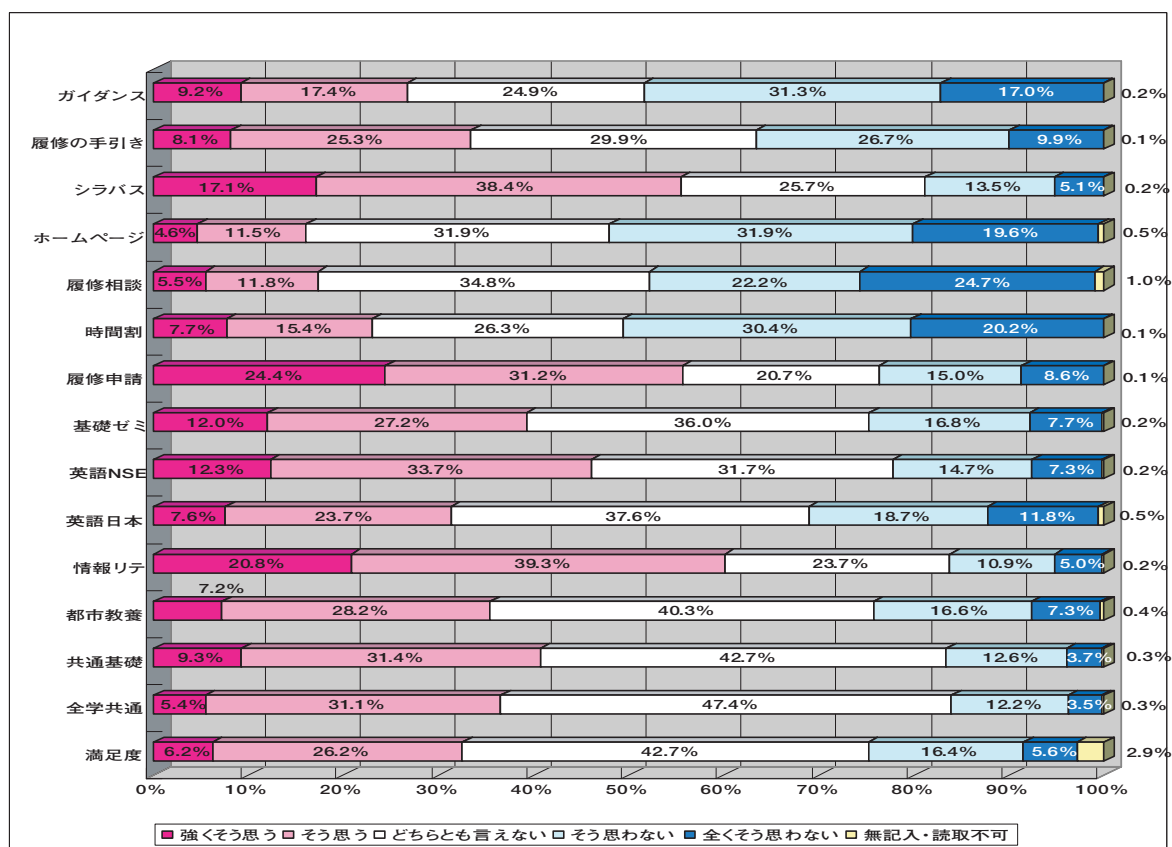


図1. 全体の%分布

2-3：「都市教養科目群」

ここでは、「基礎ゼミナール」「実践英語NSE」「実践英語日本人担当」「情報リテラシー」「都市教養プログラム」「共通基礎教養科目」の6項目を取り上げて分析してみよう。

- 「基礎ゼミナール」は平均値3.19(2.71)と大幅な改善傾向が見られる。また肯定的評価39.5(27.1)％、否定的評価34.5(42.7)％であり、こちらでも大きな改善の指標が得られている。
- 「実践英語」では「NSE」「日本人担当」とともに改善傾向がみられる。
 1. 「NSE」への解答は、平均値3.29(2.91)、肯定的評価46.0(33.4)％に対して否定的22.0(36.7)％と大幅な改善が見られる。
 2. 「日本人担当」に対しては、平均値2.97(2.73)、肯定的評価31.3(24.8)％、否定的30.5(40.1)％と大幅な改善が見られる
- 「情報リテラシー」では、平均値3.60(3.34)、肯定的評価60.1(51.3)％、否定的評価は15.9(20.6)％と大幅改善傾向が見られる。
- 「都市教養プログラム」は、平均値3.12(2.63)、肯定的評価35.4(19.3)％に対して否定的評価23.9(42.8)％と大幅な改善が見られる。
- 「共通基礎教養科目」の平均値は3.30(3.13)であり、肯定的評価40.7(38.2)％に対し、否定的評価は16.3(25.4)％と改善が図られているようである。

以上の結果から、「基礎ゼミ」によって、「大学生としての基本的な学習力が身に付いた」と考えている学生が

結構多いことが窺える。「実践英語NSE」では、英語コミュニケーション能力、「実践英語日本人担当」では文章読解力の向上が図られてきていると言ってよからう。「情報リテラシー」では、「パソコンや情報の活用力が身に付いた」との解答、「都市教養プログラム」では、「学際的・総合的に学ぶことができた」という解答、「共通基礎教養科目」では「教養を深め、専門の基礎を固めることができた」という文言に肯定的評価が下されている。

2-4「全学共通科目評価」

ここでは「全学共通科目を受講して基礎的な学力を身に付けることができた」という設問への解答に焦点を当てたい。

- 「基礎的な学力が身についた」との肯定的な解答が多いようである。平均値は3.23(2.96)、肯定的評価36.5(26.6)％に対し否定的評価15.7(26.5)％である。
- ここでは、全学共通科目に対する評価が大幅な改善傾向あることが分かる。

2-5：「全学共通科目全体の満足度」

「今年度受講した全学共通科目は、全体として満足できるものであった」という設問に対して、満足度の平均値3.11(2.86)が大きくアップした。

- 肯定的評価／中間的评价／否定的評価
36.5(24.2)％/ 47.4(41.8)％/15.7(31.7)％
- 3つの評価傾向から見ても、肯定的評価が大幅にアップし、否定的評価も半分以下に下がっている。このように、全学共通科目に関する評価は改善傾向が大であると言ってよからう。

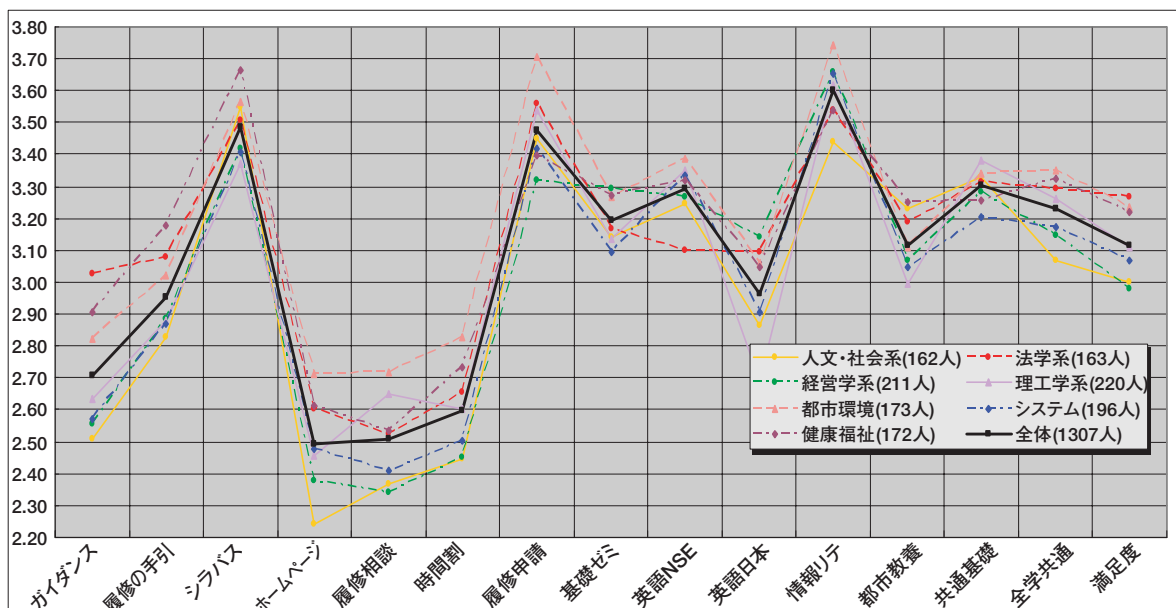


図2. 7系列（学部・学系）比較

2-6. 7系列別比較

図2は7系列の平均値を比較したグラフである。各系列の特徴を以下に挙げる。

- **人文・社会系**：ガイダンス、HP、履修相談、時間割、英語日本、全学共通、満足度に低く、都市教養のみに高い
- **法学系**：ガイダンス、履修の手引き、英語日本、都市教養、全学共通、満足度に高く、英語NSEに低い
- **経営学系**：基礎ゼミ、英語日本に高く、ガイダンス、履修手引き、HP、履修相談、時間割、全学共通、満足度が低い
- **理工学系**：履修相談に高く、英語日本に低い
- **都市環境学部**：全体的に高い評価
- **システム学部**：ガイダンス、履修相談、時間割、共通基礎に低く、後は平均的
- **健康福祉**：全体的に高い

3. 2カ年比較

図3は「全学共通科目のアンケート」のうち2カ年で共通する14の質問項目を比較したものである。図2からみればほとんどの項目に改善傾向が見られる。しかしながら、「ガイダンス」「履修の手引」「シラバス」「履修相談」「履修申請」は、2カ年共にほぼ同じ評価を得ている。しかも、平均値3.0以下の項目は、「ガイダンス」「履修の手引」「HP」「履修相談」「時間割」「英語日本人」の6項目である。この2カ年比較では、授業関係の項目への評価、および満足度への評価結果が上がっていることが特徴的である。

まとめ

回収率は76.7%。かなりの学生の意見が反映されている。「授業選択関係」では、「シラバス」は科目選択に当たって肯定的評価、「履修の手引」は平均値=3.0で中間的評価、「4月初めのガイダンス」は43.8%が肯定的評価。以上から、全学共通科目の内容・方法の紹介について、改善の必要がある。

「首都大学のHP」は50.5%が否定的評価であり、全学共通科目の理解に役立つようにするための工夫が求められる。「履修申請」は55.6%であり、ほぼスムーズに行われている様子である。「4月・10月の履修相談」は46.9%が否定的評価であり、履修計画上、改善の必要がある。「時間割」は50.6%が満足できず、受講したい授業を受講できていない状況にある。しかし、教務委員会での改善を反映し少し評価が高まったと考えられる。

授業関連では、平均値が3.0以上の項目は、「基礎ゼミ」「実践英語」「情報リテラシー」「都市教養プログラム」「共通基礎教養科目」である。「全学共通で基礎的学力」の平均値は3.23 (2.96) であり改善された。「満足度」の平均値3.11 (2.86) と改善されている。

今後、学生達の全学共通科目への満足度をさらに高めていく工夫が必要であるが、各科目で要因は異なるであろう。全学FDセミナー、あるいは各部局FDで学科や教員が自己研鑽を積んだり、学外研修会に参加するなど、FDの機会が多いといえる。

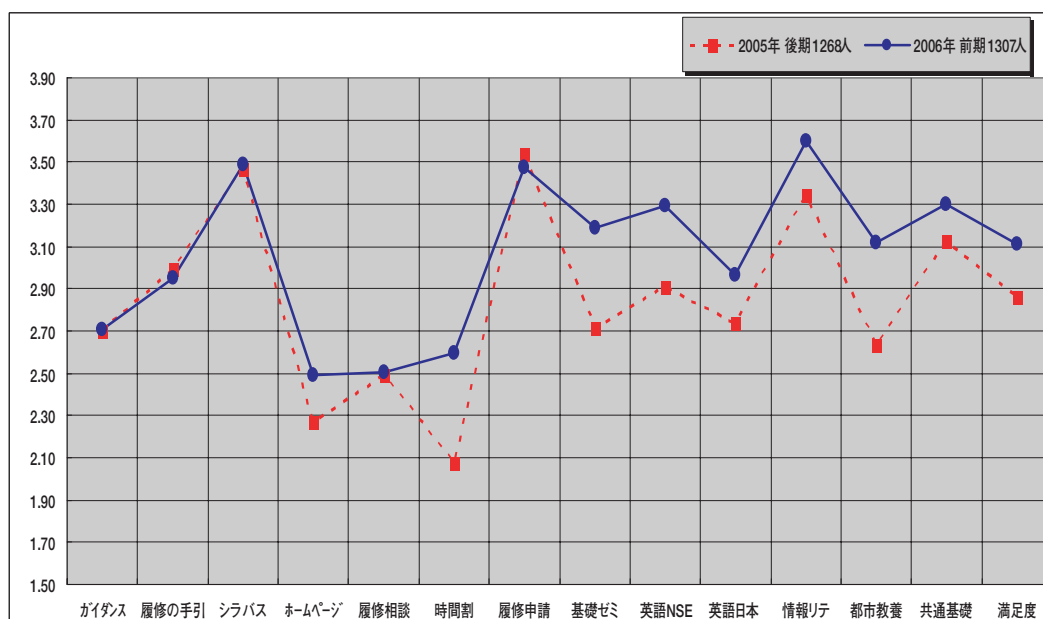


図3. 2カ年比較

あなたの意見が授業を創る！

(印刷用)

平成18年7月3日

首都大学東京の学生の皆さんへ

FD委員会委員長 上野 淳
基礎教育部会部会長 嶋田 敬三

「全学共通科目（都市教養科目群と共通基礎教養科目群）に関するアンケート調査」のお願い

この全学共通科目全体についてのアンケート調査は、本学のFD委員会と基礎教育部会がファカルティ・ディベロップメント（FD）活動の一環として、教育の現状を把握し、今後の授業改善などに役立てるために行うものです。裏面の調査票は、学生の皆さんの目から見て、首都大学東京の全学共通科目の授業やカリキュラムに関して意見を尋ねる内容となっています。是非とも皆さんの忌憚のない意見をお聞かせいただき、学生と教員・職員のみinnで授業を創る「共創」の精神で、明日の首都大の授業を改善していきましょう。

<回答方法>

裏面の調査票のそれぞれの質問について、最も適切と思われる番号を選び、マークカードにHかHBの黒鉛筆でマークしてください。

自由記述については、マークカード裏面の該当する番号の枠内に、意見を記述して下さい。

回答が済みましたら、「回収用封筒」にマークカードを入れてください。

最後に提出する人は「封印シール」で「回収用封筒」を封印してください。

(開封はFD委員会と基礎教育部会の責任において行います。)

※このアンケート結果は、個人のプライバシーを守るため統計的に処理するとともに、得られたデータはこの調査目的以外には一切使用しません。また、このアンケート調査が、あなたの成績に影響することは一切ありません。

問合せ先：南大沢キャンパス 1号館 1階 基礎教育センター事務室 教務課 中尾・白岩

あなたの意見が授業を創る！

「全学共通科目（都市教養科目群と共通基礎教養科目群）に関するアンケート調査」

以下の設問に対して、マークカードの該当する箇所にHかHBの鉛筆でマークして下さい。

(マークカードの該当しない欄は空欄のままです。)

【あなた自身のことについて】

性 別 1. 男 2. 女

学 年 1. 1年

学系・学部等 1. 人文・社会系 2. 法学系 3. 経営学系 4. 理工学系 5. 都市環境 6. システムデザイン
7. 健康福祉

以下の質問について、次の5段階評価に従って最も適切と思われる番号をマークカードにマークして下さい。

全くそう思わない そう思わない どちらとも言えない そう思う 強くそう思う

1-----2-----3-----4-----5

【授業選択関連】

- | | |
|---|---------------------------|
| 1. 4月初めのガイダンスで、全学共通科目の授業内容や履修方法がよく理解できた。 | 1-----2-----3-----4-----5 |
| 2. 『履修の手引』によって、全学共通科目の授業内容や履修方法がよく理解できた。 | 1-----2-----3-----4-----5 |
| 3. 『授業案内（シラバス）』は授業科目を選択する際に役に立った。 | 1-----2-----3-----4-----5 |
| 4. 首都大学のホームページは、全学共通科目の授業内容や履修方法の理解に役だった。 | 1-----2-----3-----4-----5 |
| 5. 4月の履修相談は、履修計画を立てるのに役立った。 | 1-----2-----3-----4-----5 |
| 6. 全学共通科目の時間割は満足できるものであり、取りたい授業を受講することができた。 | 1-----2-----3-----4-----5 |
| 7. 履修申請は問題なくスムーズに行うことができた。 | 1-----2-----3-----4-----5 |

【授業関連】

- | | |
|--|---------------------------|
| 8. 「基礎ゼミナール」の授業によって大学生としての基本的な学習力が身に付いた。 | 1-----2-----3-----4-----5 |
| 9. 「実践英語」のNSE担当授業は、英語コミュニケーション能力の向上に役立った。 | 1-----2-----3-----4-----5 |
| 10. 「実践英語」の日本人担当授業は、英語の文章読解力の向上に役立った。 | 1-----2-----3-----4-----5 |
| 11. 「情報リテラシー」の授業では、パソコンや情報の活用力が身に付いた。 | 1-----2-----3-----4-----5 |
| 12. 「都市教養プログラム」の授業で、学際的・総合的に学ぶことができた。 | 1-----2-----3-----4-----5 |
| 13. 「共通基礎教養科目（未修言語、保健体育、その他の教養科目、理工系共通基礎科目）」の授業によって、教養を深め、専門の基礎を固めることができた。 | 1-----2-----3-----4-----5 |
| 14. 全学共通科目を受講して基礎的な学力を身に付けることができた。 | 1-----2-----3-----4-----5 |
| 15. 今年度受講した全学共通科目は、全体として満足できるものであった。 | 1-----2-----3-----4-----5 |

【自由記述：マークカードの裏面に自由に記述して下さい。】

- ① 全学共通科目の授業を通じて、あなたが改善して欲しいと思うことはなんですか。
- ② 全学共通科目の授業を通じて、あなたがよかったと思うことは何ですか。
- ③ その他、気付いたことがあれば自由に意見を述べて下さい。

(ご協力有り難うございました。首都大学東京FD委員会、教務委員会基礎教育部会)